

な

ご

み

つ

う

し

ん

発行日：平成 27 年 9 月 28 日（第 9 号）

発行：島田療育センターはちおうじ

家族からのインタビュー②です。赤ちゃんが生まれたとき、家族は幸せの輪でつながります。
「輪の中心は、あなただったのよ！」そんなメッセージを子どもたちに届けたいですね。

所長 小沢 浩

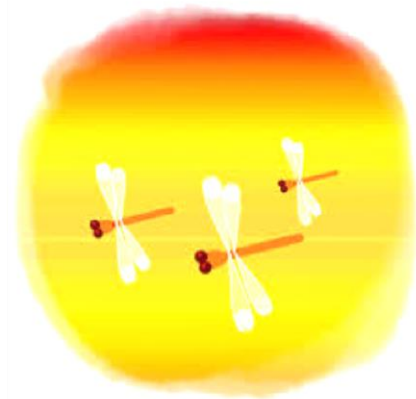
インタビューを行ったら母は、考えはじめました。やっぱり 12 年前のことなので思い出しにくいんだなと思いました。母は、かじょう書きにして書いてくれました。その内容はすごい痛いのですが、ぼくが産まれてきた時には喜びにかわり本当にうれしくて涙がでたそうです。そんなふうに思われてうまれてきてぼくは、本当に幸せだなと思いました。そう思われてうまれてきたぼくは、何事にもくじけずに心をつよくして勉強をがんばってしゅうしょくし親に恩がえししたいです。親をほこりに思い生きていきたいです。 (1 年男子)

わたしが生まれたのは朝だったそうです。病室から見た空が茜色になっていて、太陽のようにあたたかい人になってもらいたいと思って「あか音」という名前をつけてくれたそうです。

母は生まれてきてくれてありがとうとときどき言ってくれるときがあります。わたしも生まれてこれて良かったなとすごく思います。一生懸命わたしを産んでくれたので、これからもわたしは一生懸命生きていきたいと思います。 (1 年女子)

僕が生まれる前は、お母さんのおなかにいるときはよくけてとても元気だったそうです。そして、産まれたときは、おじいちゃん、おばあちゃん、友達がよろこんでくれたそうです。また、おなかの上で寝てしまいその寝顔を見ているとお母さんはすごく幸せになったそうです。そして、僕が生まれたおかげでお母さんは強くなれたそうです。僕は、みんなに幸せをはこんで来てくれたそうです。

僕はこの話を聞いて、すごくうれしかったです。また、元気に生まれてみんなに幸せを送れたので生まれてきてよかったと思います。 (1 年男子)



私のお母さんは、妊娠8カ月に入って切迫早産で入院しました。退院するまで毎日24時間点滴をずっとしていました。1カ月半の入院後、退院して自宅で安静生活をしていました。私のお母さんは、出産する前に大変な思いをしてお腹の中の私を育ててくれました。

生まれたときは、苦労したことも忘れるほどうれしかったと言ってくれました。五体満足で生まれてくれて良かったと、お父さんお母さん共によろこんだそうです。

私は、生まれる前にお母さんが大変な思いをして生まれてきているのだと思いました。入院中ずっと点滴をして、安静生活を続けてくれてお腹の中の私は守ってくれていたと思うと、がんばらなくてはと思いました。私は夜泣きはしないし、よく寝てよく食べる子でお母さんは健康で良かったと言っていました。でも、夕方になると毎日泣いておばあちゃんが大変だったそうです。こんなに苦労をかけて、育ててきてもらっているので感謝の気持ちを持ってこれから勉強などをがんばりたいです。

(1年女子)

ぼくが生まれたとき
僕がお母さんのおなかから出てきた時、お母さんは、泣いたらしい。

僕は、こぶりだったらしい。

僕は、午後10時8分に生まれたらしい。

僕の大きさは、46センチだったらしい。

僕の重さは、1770グラムだったらしい。

僕のおでこには、しろうせいしっしんがあったらしい。

僕のおでこは、がさがさだったらしい。

それは、お母さんの甘い物の食べ過ぎがげんいんらしい(チョコレート)。

お母さんがいうには、やっと生まれた僕がかわいかったらしく、いっぱい遊んであげるからなとか思ったらしい。

僕が泣いた時、お母さんは、やっと生まれたんだなとか、くろうしたかいがあったななどと思ったらしい。とにかくかわいかったらしい。

(1年男子)

(奇跡がくれた宝物 小沢浩著
クリエイツかもがわ より)

